

令和 5 年度将来人口推計結果

1 目的

墨田区基本構想の策定の基礎資料とするため、将来人口の推計を実施した。

2 推計方法

内容	パターン 1	パターン 2	パターン 3
	区のトレンド	都のトレンド補正	国立社会保障・人口問題研究所推計の補正
推計期間	令和 6 (2024) 年～令和 37 (2055) 年		令和 2 (2020) 年～令和 32 (2050) 年まで 5 年ごとの 30 年間
推計方法	コーホート要因法		
基準人口	令和 5 年 4 月 1 日時点の住民基本台帳に登録のある性別・年齢別人口 (外国人を含む。)		
生残率	国立社会保障・人口問題研究所仮定値 ※性・年齢別に設定		
母親年齢別出生率	母親年齢別出生数 (平成 29～令和 3 年度)		こども女性比 (直近 4 回の国勢調査時点を基に算出)
移動率	住民基本台帳人口に基づく、過去 6 年間の移動率の平均値を、将来にわたって一定とした値 (コロナ前後の影響を考慮)		直近 4 回の国勢調査で観察された地域別の平均的な人口移動傾向が将来にわたって継続すると仮定した値
特記事項	過去の人口推移を踏まえ、そのトレンドが今後も続くと仮定	パターン 1 に「未来の東京」戦略附属資料東京の将来人口 (令和 5 (2023) 年 1 月公表) における出生率及び移動率を補正※1	-

※1 「未来の東京」戦略 附属資料 東京の将来人口における出生率及び移動率

	H22→H27	H27→R2	R2→R7	R7→R12	R12→R17	R17→R22	R22→R27	R27→R32	R32→R37
出生数 (万人)	55	53	48	49	48	47	46	44	42
出生率補正計数 対 R2→R7 比	—	—	100%	102.1%	100.0%	97.9%	95.8%	91.7%	87.5%
社会増減数 (万人)	35.7	59.4	35.6	31.7	25.1	16.8	16.6	16.6	16.5
移動率補正計数 対 R2→R7 比	—	—	100%	89.0%	70.5%	47.2%	46.6%	46.6%	46.3%

3 推計結果

(1) 各推計パターンの推計結果

①パターン1

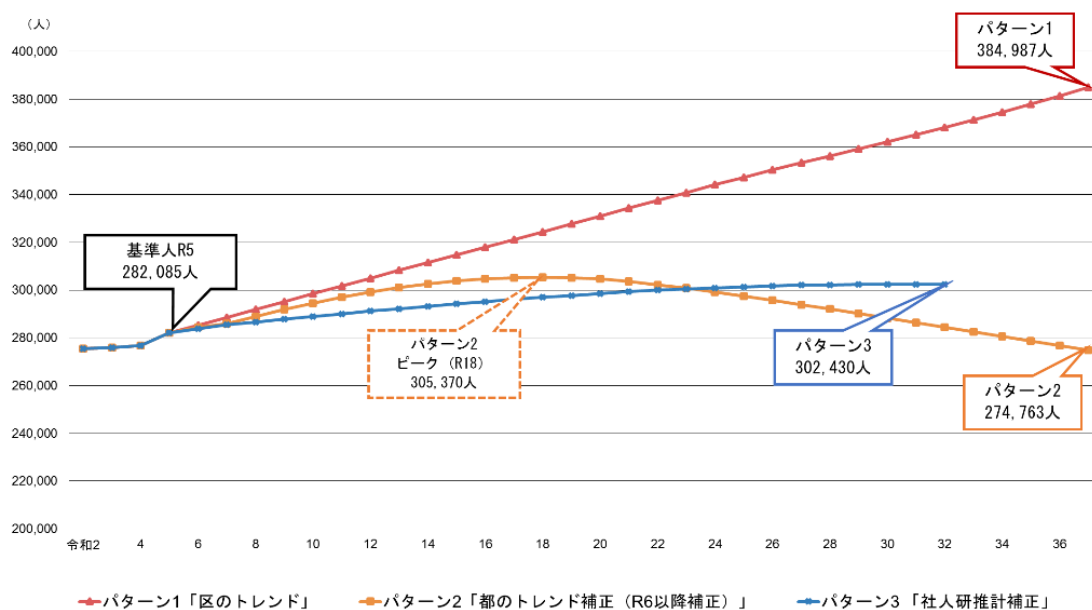
過去6年間の人口の推移を踏まえ、年々増加していく。

②パターン2

令和7年以降、社会移動率が減少するため、令和18年をピークに減少していく。

③パターン3

パターン1より社会移動率が低く算定されるが、緩やかに増加していく。



(2) 採用する推計結果

直近の人口の推移と広域的な観点を踏まえ、パターン2を採用する。

4 採用する推計結果の詳細

(1) 総人口

本区の総人口は、今後も転入超過の状況が続き、令和17(2035)年頃に約305,000人でピークを迎えるまで、社会増を主要因とする増加が見込まれる。その後は、社会流入の縮小や自然減が強まる影響により減少過程に入り、令和30年代には、現在の人口規模を下回る見込みである。

【総人口の推移】

(単位: 年、人) (令和5年は実数)

令和5	7	12	17	22	27	32	37
(2023)	(2025)	(2030)	(2035)	(2040)	(2045)	(2050)	(2055)
282,085	285,978	299,144	305,194	302,266	293,912	284,444	274,763

(2) 年齢3区分別人口

年少人口（0～14歳）は概ね令和22（2040）年前後まで横ばいに推移し、生産年齢人口（15～64歳）は概ね令和17（2035）年前後まで増加し、以後減少していく見込みである。老年人口（65歳以上）は概ね令和7（2025）年前後までやや減少するが、以後は増加していく見込みである。人口に占める割合も同様の傾向をたどる見込みであり、令和32（2050）年には、区民の4人に1人が65歳以上という推計結果となった。

【年齢3区分別人口の推移】

（単位：年、人）（令和5年は実数）

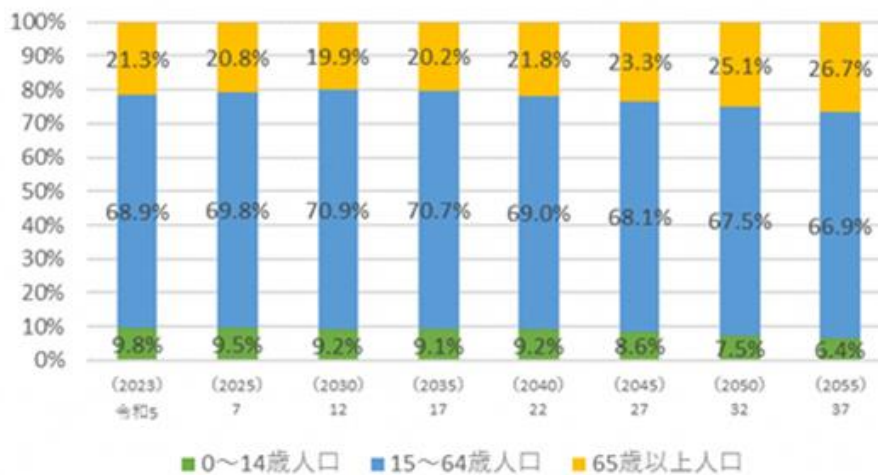
	令和5 (2023)	7 (2025)	12 (2030)	17 (2035)	22 (2040)	27 (2045)	32 (2050)	37 (2055)
0～14歳人口	27,662	27,097	27,436	27,749	27,896	25,261	21,302	17,529
15～64歳人口	194,308	199,516	212,172	215,742	208,512	200,077	191,865	183,827
65歳以上人口	60,115	59,365	59,536	61,702	65,857	68,574	71,277	73,406

【年齢3区分別人口の割合】

（単位：年）

	令和5 (2023)	7 (2025)	12 (2030)	17 (2035)	22 (2040)	27 (2045)	32 (2050)	37 (2055)
0～14歳人口	9.8%	9.5%	9.2%	9.1%	9.2%	8.6%	7.5%	6.4%
15～64歳人口	68.9%	69.8%	70.9%	70.7%	69.0%	68.1%	67.5%	66.9%
65歳以上人口	21.3%	20.8%	19.9%	20.2%	21.8%	23.3%	25.1%	26.7%

年齢3区分別人口推移の割合



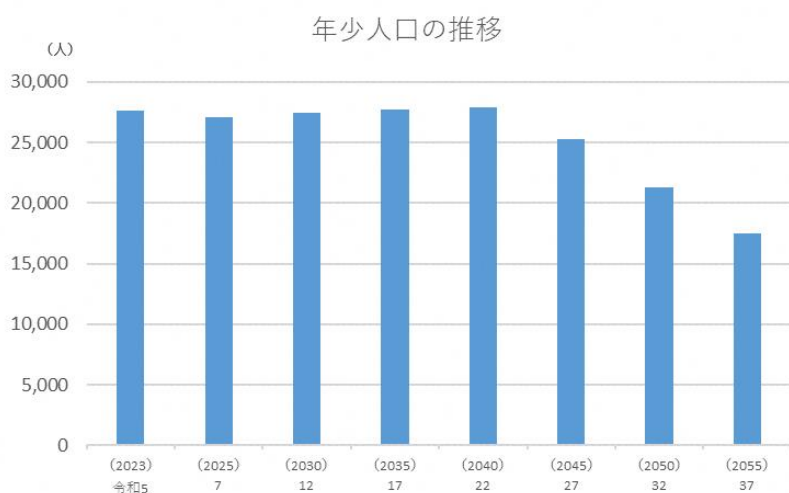
0～14歳人口（年少人口）

概ね横ばいに推移し、令和 22（2040）年には約 28,000 人となり、以後減少して令和 27（2045）年には約 25,000 人になり、現在の当該人口を下回る見込みである。

【年少人口の推移】

（単位：年、人）（令和5年は実数）

	令和5	7	12	17	22	27	32	37
	(2023)	(2025)	(2030)	(2035)	(2040)	(2045)	(2050)	(2055)
0～14歳人口	27,662	27,097	27,436	27,749	27,896	25,261	21,302	17,529
総人口に占める割合	9.8%	9.5%	9.2%	9.1%	9.2%	8.6%	7.5%	6.4%



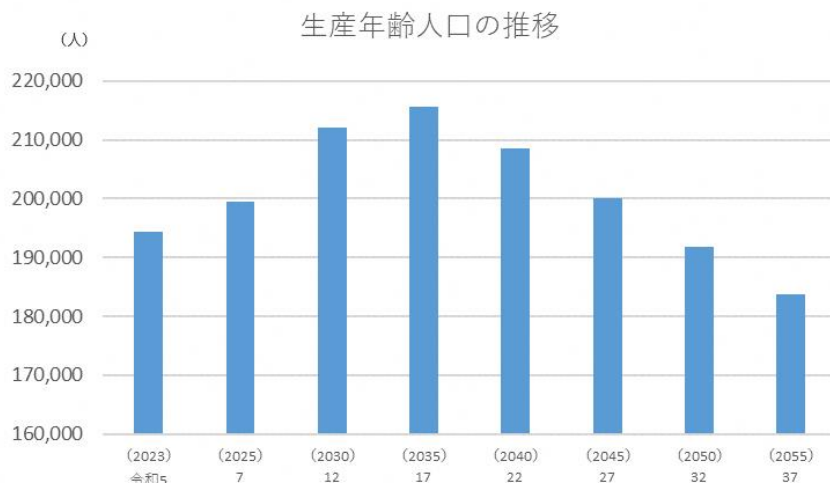
15～64歳人口（生産年齢人口）

令和 17（2035）年の約 216,000 人まで増加し、以後減少して令和 32（2050）年には約 192,000 人となり、現在の当該人口を下回る見込みである。

【生産年齢人口の推移】

（単位：年、人）（令和5年は実数）

	令和5	7	12	17	22	27	32	37
	(2023)	(2025)	(2030)	(2035)	(2040)	(2045)	(2050)	(2055)
15～64歳人口	194,308	199,516	212,172	215,742	208,512	200,077	191,865	183,827
総人口に占める割合	68.9%	69.8%	70.9%	70.7%	69.0%	68.1%	67.5%	66.9%



65歳以上人口（老年人口）

令和7（2025）年までは現在の当該人口よりやや減少するが、以後は増加傾向で推移することが見込まれる。団塊ジュニア世代が65歳以上となる令和22（2040）年には約66,000人、さらに団塊ジュニア世代が75歳以上となる令和32（2050）年には約71,000人になると推計され、4人に1人が65歳以上となる見込みである。

【老年人口の推移】

（単位：年、人）（令和5年は実数）

	令和5	7	12	17	22	27	32	37
	(2023)	(2025)	(2030)	(2035)	(2040)	(2045)	(2050)	(2055)
65歳以上人口	60,115	59,365	59,536	61,702	65,857	68,574	71,277	73,406
総人口に占める割合	21.3%	20.8%	19.9%	20.2%	21.8%	23.3%	25.1%	26.7%

【老年人口の内訳】

（単位：年、人）（令和5年は実数）

	令和5	7	12	17	22	27	32	37
	(2023)	(2025)	(2030)	(2035)	(2040)	(2045)	(2050)	(2055)
65～74歳人口	26,836	24,564	24,460	28,990	33,937	34,699	32,927	32,162
75歳以上人口	33,279	34,801	35,076	32,712	31,920	33,875	38,350	41,244

